2020 年 8 月 28 日

●●　御中

拝啓　時下益々ご清聴のこととお慶び申し上げます。
私たちは、現在、気候変動や生物多様性の破壊に関心をもち、地球規模での森林の保全を呼び掛けている環境保護団体および個人です。

ご存じの通り、貴社が出資する H.I.S.スーパー電力が、宮城県角田市でパーム油を燃料とする 41 メガワットの発電所の建設を行い、まもなく試験操業が開始されます。燃料として年間約 7 万トンのパーム油を輸入します。

私たちは、この事業が「熱帯林を破壊する」「石炭以上の二酸化炭素が発生する」として反対し、御社澤田社長や H.I.S.スーパー電力の赤尾社長とお会いして、問題点を伝えてまいりました。しかし、工事は着工されてしまいました。その後、私たちは本事業に反対する署名を呼びかけ、世界中から集まった 20 万筆をこえる署名を 2 度にわたり提出させていただきました。しかし、いずれも御社の方々との面談は拒否されてしまいました。このような態度は、市民社会との対話を拒むものであり、誠に残念です。

パーム油は主として食品用に使われてきましたが、近年、需要の増大に伴い、アブラヤシ・プランテーションが急速に拡大し、インドネシアやマレーシアにおける熱帯林の破壊の主要な要因のひとつになっています。インドネシアとマレーシアでは過去 20 年間に約 350 万 ha もの熱帯林がアブラヤシ・プランテーションに転換されました。

多様な樹種から構成される熱帯林が一度伐採され、単一のアブラヤシが植えられるプランテーションになると、もともと熱帯林に生息していたオランウータンやゾウなどの野生生物が生息できなくなり、生物多様性が失われます。

パーム油生産のために造成のために切り開かれた森林跡地。マレーシア・サラワク州
©FoE Japan

貴社は RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）の認証油を使うと説明されていますが、RSPO（2013）の認証油では、確かに 2005 年以降の原生林の転換は禁止していますが、二次林の開発は許容されています。また、そもそも耕作可能な土地が有限である以上、RSPO の認証油には限りがあり、食品企業の方々も調達に苦労されている状況です。

また、パーム油の需要が拡大すれば、アブラヤシ農地を造成するための熱帯林や泥炭地の開発により、膨大な量の CO_2 が放出されます。加工段階で生じる廃液で、メタンなどの温室効果ガスも大量に発生します。これらのライフサイクルにわたる排出を加味すれば、パーム油発電は、石炭火力発電よりはるかに多くのの CO_2 が発生することとなります。

私たちは御社によるパーム油火力発電により、かけがえのない熱帯林や気候などが壊されてしまうことをたいへん懸念しています。

また、貴社がこうした危険なビジネスに乗り出すことは、御社にとっても経営的なリスクとなると考えています。今後、数十年にわたって、マレーシア・インドネシアからパーム油を輸入し続け、そ

の間、パーム油の需要拡大は、気候や生物多様性の破壊として、批判がたかまっていくでしょう。経済産業省は、FIT の議論の中で、ライフサイクルにわたっての GHG 排出評価も義務付けていく方向性を示しています。今後、パーム油発電が、気候変動上「好ましくない」とされ、撤退を余儀なくされる可能性もあります。御社が築き上げてきた、企業ブランドにとっても大きな打撃となるでしょう。すでに東洋経済（添付をご覧ください）やエコノミスト、NHK BS などでも、パーム油発電の問題点が批判的に取り上げられています。

なによりも、ボルネオの熱帯林のエコツアーやスタディツアーに力を入れてきた御社が、熱帯林や野生生物の生息地の破壊をもたらす根本的かつ構造的な問題に目をつぶり、その破壊に積極的に加担することは、長年の顧客の信頼を損なう行為ともいえるのではないでしょうか。実際、私どもには、批判とともに、「本当なのか」、「信じられない」、「がっかりした」などの疑問の声も多数寄せられております。

ぜひ、この事業を思いとどまってくださいますよう、御社の内部からもお声をあげていただけますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

国際環境 NGO FoE Japan、ウータン・森と生活を考える会、気候ネットワーク、国際環境 NGO グリーンピース、地球・人間環境フォーラム、熱帯林行動ネットワーク、プランテーション・ウォッチ、Mighty Earth、Fridays for Future Sendai、Fridays for Future Furano、Fridays for Future Sapporo、Fridays for Future Iwate、Fridays for Future Miyazaki、Fridays for Future Saitama、Biofuelwatch（イギリス/アメリカ）、Friends of the Siberian Forests（ロシア）、Stand.earth（アメリカ）、Forum Ökologie & Papier（ドイツ）、Friends of the Earth US（アメリカ）、Rainforest Rescue（ドイツ）、Centar za zivotnu sredinu/ Friends of the Earth Bosnia and Herzegovina（ボスニア・ヘルツェゴビナ）、pivot point（アメリカ）、Centre for Environmental Justice（スリランカ）、TABIO（タンザニア）、Global Forest Coalition（世界）、Fern（ベルギー）、reacción climática（ボリビア）、Justica Ambiental - JA!（モザンビーク）、Protect the Forest Sweden（スウェーデン）、Indigenous Knowledge and Peoples Network Society for Wetland Biodiversity Conservation Nepal　in Federation of Kirat Indigenous Association（ネパール）、BUND（Friends of the Earth Germany）- Bund fuer Umwelt und Naturschutz Deutschland e.V.（ドイツ）、Friends of the Earth International（世界）（32 団体）

明日香壽川（東北大学東北アジア研究センター教授（気候変動政策）、泊みゆき（バイオマス産業社会ネットワーク理事長）、寺西俊一（一橋大学大学院経済学研究科）、細川弘明（京都精華大学人文学部教授）、松原弘直（認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所理事・主席研究員）、満田夏花（国際環境 NGO FoE Japan 事務局長）、水口剛（高崎経済大学教授（責任投資・非財務情報開示），日本サステナブル投資フォーラム共同代表）、水戸部秀利（医師, NPO きらきら発電・市民共同発電所理事長）、山下英俊　（一橋大学 大学院経済学研究科　准教授）、長谷川公一（東北大学大学院教授（環境社会学）、除本理史（大阪市立大学大学院経営学研究科教授）、James Hewitt（globaltimber.org.uk）、Dr. Andy Heßberg、Mihoko Uramoto、Yvonne Bohr、Vanessa Cabanelas、Viktor Konoplyanko（17 個人）

連絡先：国際環境 NGO FoE Japan
〒173-0037　東京都板橋区小茂根 1-21-9
TEL: 03-6909-5983　／　FAX: 03-6909-5986